

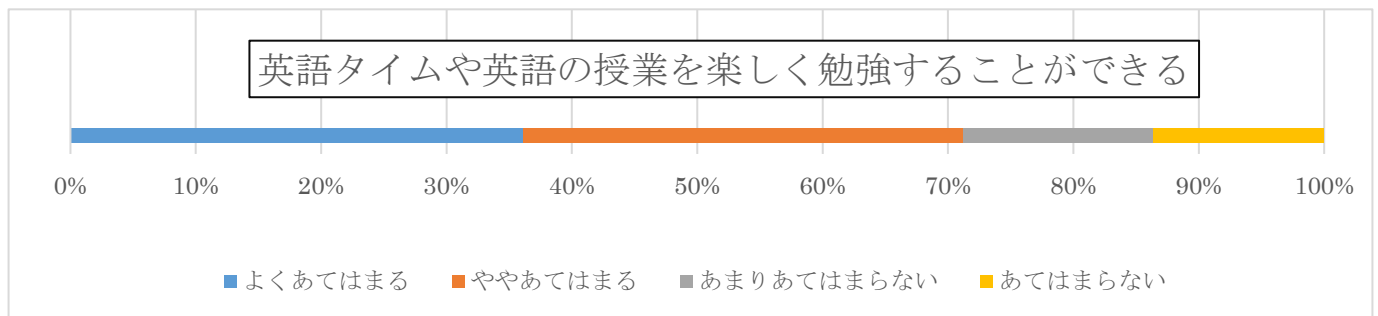
令和7年度特別の教育課程の実施状況等について

1 自己評価結果

令和7年度末、本校児童にアンケートを行ったところ、「英語タイムや英語の授業を楽しく勉強することができる」という質問に対し、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と回答した子供は、全体の71.2%でした。一昨年度より14.2%減少した結果となりました。

昨年度から減少したものの、7割の子供は、毎日取り組む英語タイムや3・4年生の外国語活動に意義を感じ続けています。このことから、子供にとってよい学びにつながっていることを示していることが分かりました。今後、更に英語に対する興味関心を高め、英語タイムや外国語活動の授業を充実できるように、積極的に英語を活用する場面を増やすなど、改善を図りたいと考えています。

【資料1】児童のアンケート結果

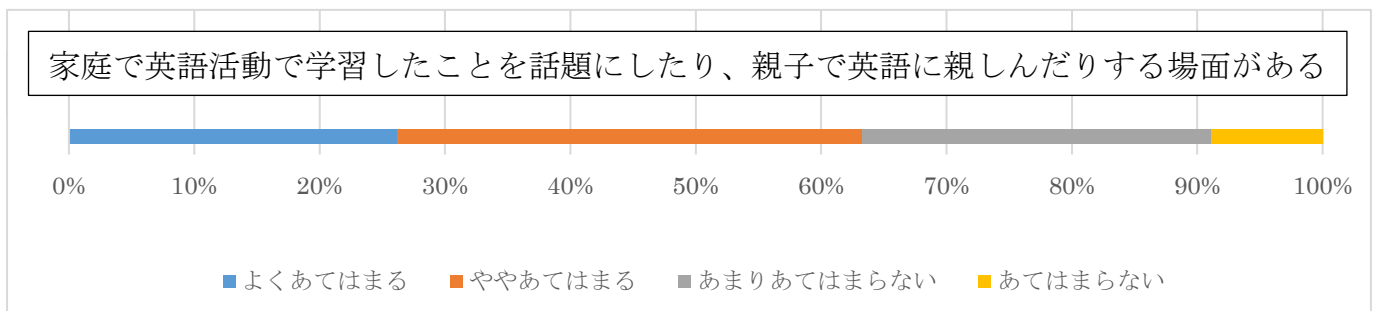


2 学校関係者評価結果

令和7年度に保護者向けのアンケートを行ったところ、「家庭で英語活動で学習したことを話題にしたり、親子で英語に親しんだりする場面があった」という質問に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者は、全体の63.3%でした。昨年度と比較して、17.3%の減少となりました。

このことから、子供は楽しく活動ができているものの、家庭で積極的に話をする機会が少ないことが分かります。今後は、より一層英語活動を充実させ、英語を学ぶことのよさを伝える機会を少しでも増やすとともに、英語に慣れ親しみ、英語での会話をコミュニケーションツールの一つとできるような子供たちを育てたいと考えています。

【資料2】保護者のアンケート結果



3 まとめ

今後の課題として、子供の英語に対する興味関心を高めることが挙げられます。また、子供のその思いの高まりが学校での英語活動や外国語の授業での学びとリンクし、日常生活の中で英語を使う場面が少しでも増え、「生きた英語」を体感できるようにしていくことも挙げられます。

英語活動や外国語の授業内容の一層の充実を図るとともに、短時間でも繰り返し英語に触れることができるような場面を設けていきたいと思います。また、子供から英語を使ったり、話題に出したりできるよう、英語に対する関心をより一層高めていきたいと考えています。